

介護事業部 ヘルパーセンター 好事例シリーズ⑥

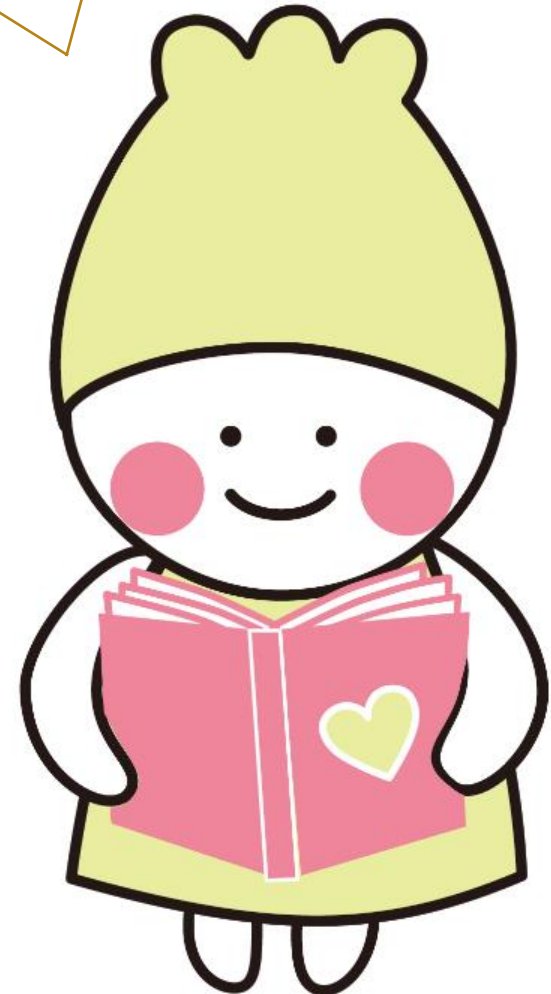
「ヘルパーが関わるようになり、
家族の精神的負担が軽減、
介護用品の提案ができた」

～事例分類～

健康状態 / 理解・行動 / ADL /

家事・IADL / QOL / **介護状況**

利用者さんが
どんな風に元気になったのか
読んでみるまも♪



スライド全6枚

【事例情報】

○80歳代 ○女性 ○介護度2

【Before】2019年3月頃

ご利用者本人(以下ご本人)の夫(以下ご主人)は周囲を頼ることをしない方。認知症の理解が薄いことに加え、必要以上に気を遣い、他人に迷惑をかけたくない・(ご本人の認知症を)恥ずかしいこととの思いから、人の出入りも好まなかった。

そのため、週1回の掃除の活動においても、当初はヘルパーとご本人を関わらせたくないようで、ご本人に部屋で過ごすよう言われていた。




【After】2019年12月月頃～2020年2月頃

2019年12月：デイサービスの送り出しの依頼あり。**今まで見られるのが嫌だったご本人の寝室を見せてくださり、ヘルパーに片付けの依頼あり。**

2020年1月：ヘルパーがデイサービスの送り出しをするようになり、**デイサービスへスムーズに行けるようになった。**ご主人の負担も軽減できた。

2020年2月：ご主人より、ご本人とヘルパーが楽しそうに話しているのを見て微笑ましいとの言葉あり。

経過

阻害要因・背景	サービス・ケア内容	サービス提供のねらい
<p>認知症の周辺症状により、徘徊やご主人への攻撃的な言動あり。</p> 	<p>訪問時、ご本人にはできるだけ声をかけ、会話を持つようにした。ご主人にもヘルパーと一緒にできる家事をするために訪問していることを都度伝えていた。</p>	<p>ご本人の混乱予防。 ご主人の介護負担軽減も目的であることを伝えた。</p>
<p>2020年1月頃より、尿失禁あり。</p>	<p>リハビリパンツやラバーを提案。 活動中に使用方法の確認やアドバイスをを行った。</p>	<p>毎日、トイレ声掛けや見守り、汚れ物の洗濯をされているご主人の介護負担軽減。</p>
<p>他者に頼ることが苦手なご主人。</p>	<p>訪問時にご主人の話を伺い、一緒に考え、必要時にはケアマネジャーへ相談。</p>	<p>一人で抱え込まず、思いを話やすくなるよう信頼関係を築く。</p>

事例提出者からのアピールポイント

項目	内容
家族の思いを知ること・押し付けない	ヘルパーとご本人を関わらせたくないご主人の思いが強かったため、様子を伺いながら徐々に関係が築けたことで、ご本人にも楽しいと思っただけの支援ができた。
ヘルパー派遣増の依頼	当初は、人の出入りに抵抗があったが、ご主人からデイサービスの送り出しや通院時の準備の依頼があった。
夫婦の関わり	ヘルパーによるデイサービスの送り出しの支援が始まり、ご本人が気持ちよくデイサービスに行けるようになった。ご主人は朝の時間にゆとりが出来た。
ヘルパーの関わり	認知症があり、孤独感や周囲の状況がわからず不安になることが多かったが、ヘルパーが訪問すると、精神的に落ち着かれていた。

💡事例へのコメント💡

認知症の妻に対して男性介護者(特に夫)が持つ感情のひとつに、「人に見られたら可哀相」があります。男性特有の感情ではありますが、認知症の妻を男性介護者が一人ですべて抱え込んでしまう結果になる可能性があります。事例も一歩間違えると地域で孤立する夫婦になりかねないところを、ヘルパーが妻だけでなく夫のペースに合わせて、時間をかけてタイミングよく提案を行い、信頼関係を築いています。生き生きとデイサービスを楽しむ妻の顔を見て、安心する夫の姿が目につく好事例です。

これからも、地域でその人らしい暮らしが続けられるよう、だれもが孤立せずにお互いに支え合う福祉のまちづくりをオール社協で連携して目指していきましょう。

【札幌市社会福祉協議会 ボランティア振興課】



私たちと一緒に 働きませんか♪

お友達を紹介して
ほしいまも

ヘルパー募集のご案内はこちら！



社会福祉法人札幌市社会福祉協議会
介護事業部



まもりん